

Ⅱ 回帰分析の結果

～大阪市立大学院創造都市研究科五石敬路准教授による分析～

1. 子どもの孤食と親子の健康状態

子どもと夕食を一緒にしている程度が少ないほど親子の主観的健康状態が良くない。その理由は、子どもの食事の頻度や食事の内容よりも、親の生活リズムの不規則さにより子どもの孤食が増え、睡眠時間が短くなっていることが原因となっている可能性が高い。

図1：子どもと夕食を一緒にしている程度別に見た本人の主観的健康状態（母子世帯）

子どもと夕食を一緒に食べている頻度が少ないほど、親の健康状態が悪い。（ほとんど毎日子どもと一緒に食べると回答した母親で自分が健康と答えた割合は 27.3%、ほとんどないと回答した人では 11.7%。）

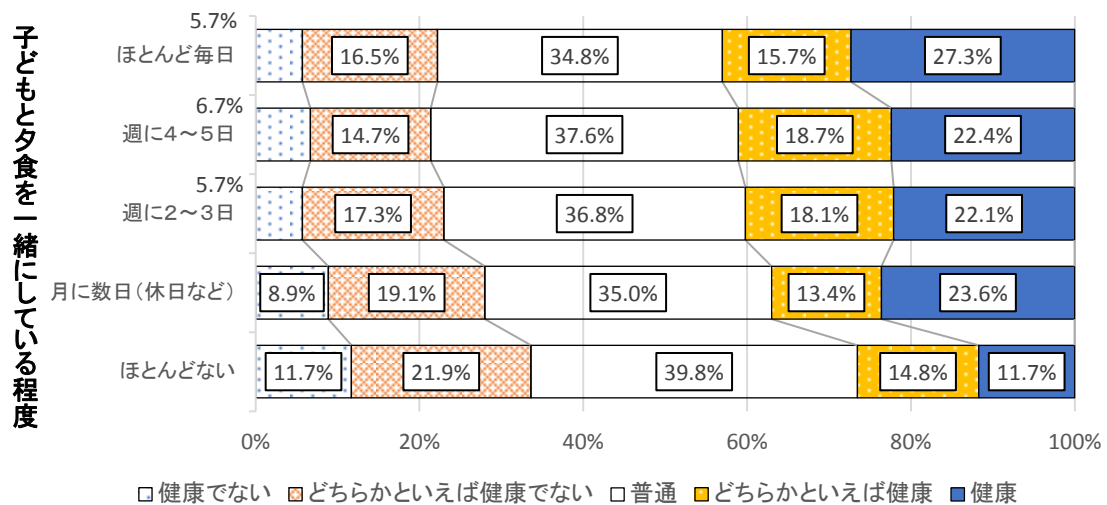


図2：子どもと夕食を一緒にしている程度別に見た子どもの主観的健康状態（母子世帯）

親と夕食を一緒に食べている頻度が少ないほど、子の健康状態は悪い。（ほとんど毎日一緒に食べると回答した人で子が健康と答えた割合は 50.7%、ほとんどないと回答した人では 30.7%。）

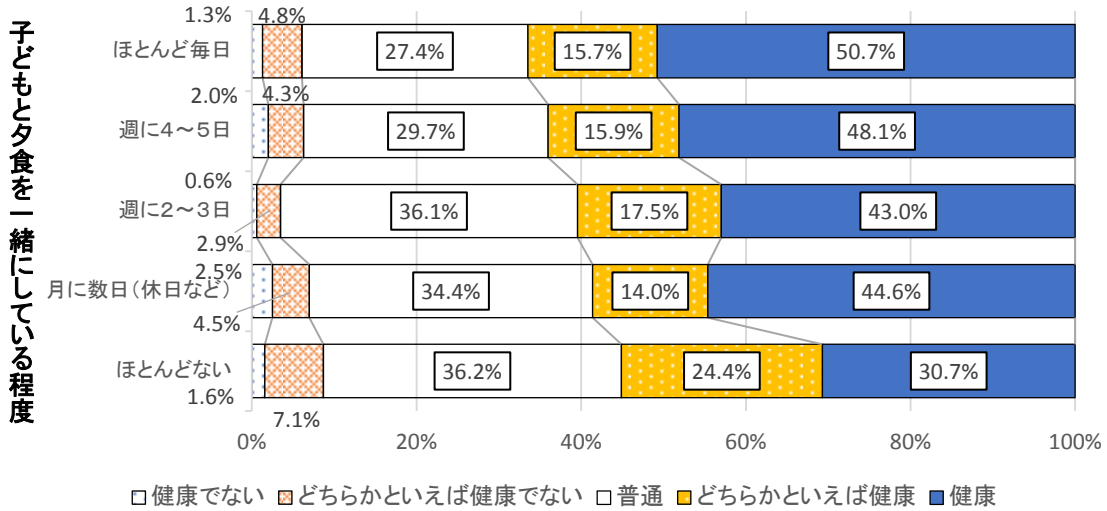


図3：子どもと夕食を一緒にしている程度別に見た本人の睡眠時間（母子世帯）

親と夕食を一緒に食べている頻度が少ないほど、本人の睡眠時間は短い。（ほとんど毎日子どもと一緒に食べると回答した人で6時間未満睡眠の割合は 24.7%、ほとんどないと回答した人では 41.5%。）

